

市政に関する一般質問 12月会議は20名の議員が質問

新鎌ヶ谷駅南側未利用地(県有地)の土地活用について

勝 又 勝 議員

○ 新鎌ヶ谷駅南側に残る2カ所の未利用の県有地に係る活用について、県との協議状況を伺います。

○ 本市の発展やにぎわいの創出につながる土地活用を県と共有していますが、これら

の土地活用についてはプロポーザル方式の事業者選定は困難であると示されました。

○ これらは駅前の一等地ですが、市では、どのような土地活用が望ましいですか。

○ まちづくりの観点から、

環境に対する施策について

針 貝 和 幸 議員

○ 近隣のEV車※の導入状況を伺います。

○ 白井市が1台、船橋市、野田市及び我孫子市が2台、松戸市が6台、市川市が8台、柏市及び流山市が13台です。東葛5市に加え、本市に隣接

するいずれの自治体でもEV車を導入しています。

○ ゼロカーボンシティ宣言をしたことから、本市の将来的なEV車の導入に関する見解を伺います。

○ EV車のメリットとして

排出ガスが一切無いこと、また、災害時には、動く電源車として避難所で携帯電話の充電などに活用可能となりますが、市内の充電設備の設置状況を踏まえると、庁用車駐車場に充電設備の設置も必要となります。しかし、環境施策として大変有効なことから、導入に向けて課題整理を進めたいと考えています。

学校給食費の保護者負担の軽減について

寺 本 真 理 議員

○ 学校給食費の公費補填の現状を伺います。

○ 小学校1食あたり25円、中学校1食あたり59円の公費補填を実施しています。

○ 本市の給食費の保護者負担は、東葛葛南9市内、どの程度に位置しますか。

○ 給食費完全無償化を実施している市川市を除く8市との比較では、小学校での負担額は2番目に低く、中学校では最も低くなっています。

○ 令和6年度から小学校1年生を無償化とする理由や今後の保護者負担の軽減への取り組みを伺います。

物価高騰対策のための重点支援地方交付金の活用について

小 易 和 彦 議員

○ 低所得世帯支援枠の概要を伺います。

○ 国からの通知によると、支援の方法や1世帯当たり単価などの具体的な内容は地域の事情に応じて決めることができるので、本市では現金で

1世帯当たり7万円を給付する予定です。

○ 低所得者世帯支援枠では「物価高騰から市民生活を守るための緊急要望」を市長へ提出し、年内の予算化を要望していますが、検討状況について伺います。

水害対策について

泉 川 洋 二 議員

○ 東初富一丁目16番地先の浸水被害の軽減策について伺います。

○ 一般的には、既設配水管の口径を大きくしたり、新たなルートの配水管の整備などにより流下能力を向上させることのほか、大雨の際、雨水流出を抑制し、下流の排水管への負荷を軽減する雨水貯留浸透施設を設置することなどが

あり、既存の排水施設の能力を十分に発揮できるように、施設の点検や維持管理を行い、実施可能な対策について調査研究していきたいと考えています。また、今後、既存の排水施設の負担軽減のための対策として、開発時における雨水流出抑制施設の設置指導、建築時の雨水浸透ますの設置促進を図りながら冠水対策に努めていきます。



雨水浸透ます

北千葉道路早期実現に向けて

伊 藤 仁 議員

○ 北千葉道路の早期供用が一番時間がかかるのは用地買収ですが、地権者が納得して買収に応じるかは、地権者個人のメリット、デメリットもあります。道路用地に隣接する買収されない自分の土地が高架により日陰になるのか、地下化によりいろいろな施設ができて、都市公園に面した環境のいい土地になるのかは大きな違いです。また、この道路が鎌ヶ谷にとって価値あるものになるかも大きく、そ

のためには、道路を地下に埋めるしかないと考えますが、市の見解を伺います。

○ 地下化できるのであればその方が良くと思います。市民に聞いても同じように考えていると思います。しかし、費用の検証をするための設計も組まれていないのが実際です。そのような中で、事業経費が大きく増大したときに国民の理解を得られるのか大きな疑問です。

鎌ヶ谷市文化財保存活用地域計画について

森 谷 宏 議員

○ 第3期鎌ヶ谷市教育振興基本計画における伝統や文化の取組について伺います。

○ 同計画は、子どもたちが自ら課題を見つけ、解決するための資質、能力を身に付けるよう学校、家庭、地域

での連携や協力について定めています。地域の伝統や文化財を学ぶことは、地元への愛着や誇りを持つことや文化を継承する心を育てることから、子どもたちが学ぶ機会を創出し、学校、家庭、地域

福祉タクシーの拡充について

水 町 元 大 議員

○ 福祉タクシーの制度の概要を伺います。

○ 重度の心身障がいを持つ方が対象で、市と契約したタクシーを利用した場合の運賃に対し、1回あたり70円を助成するもので、障がいの程度に応じて年間に決められた枚

数の福祉タクシー利用券を交付するものです。これによりタクシー利用を容易にし、障がいを持つ方の社会活動の範囲を広げ、福祉の増進に資することを目的としています。

○ 現状の課題を伺います。

○ 福祉タクシー利用券の交付するもの、これによりタクシー利用を容易にし、障がいを持つ方の社会活動の範囲を広げ、福祉の増進に資することを目的としています。

買い物困難者への支援について

伊 福 幸 一 議員

○ 令和5年10月から開始した民間事業者による移動販売の概要を伺います。

○ 日常の買い物に不便を感じる方々の問題の解消、地域の見守りやコミュニティの醸成を図ることを目的とするもので、販売地区は、中沢、道野辺、馬込沢などとなっています。販売方法は、移動スパーの軽トラックに生鮮食品、惣菜、パン、米、日用品

などを積載し、週に1、2回販売ルートを訪問し、高齢者等が直接選んで購入できるようなっています。

○ 今後の移動販売事業の拡大予定について伺います。

○ 移動販売事業の検証から日常の買い物に不便を感じる市民が多いことが判明したため、販売車両の増車や販売地区の拡大に向けて事業者を支援していきます。



高齢者・障がいの者の移送サービスについて

佐 藤 剛 議員

○ 福祉有償運送サービスの概要を伺います。

○ 身体障がい者や要介護者など、単独ではタクシー等の公共交通機関の利用が困難な方に対し、特定非営利活動法人や社会福祉法人などが営利

とは認められない範囲の対価によって、自家用自動車を使用して会員に提供する個別有償輸送サービスとなります。

○ 福祉有償運送に対する県内の補助事業の実施状況と本市における補助事業に係る見解について伺います。

○ 流山市、白井市、千葉市では、設立及び運営経費を対象に補助金を交付しています。また、市川市では業務に携わる運転手が受講する講習料の一部を補助しており、本市においても当該補助の実績や効果など、先進事例を調査研究していきます。

(※)EV車：Electric Vehicleの略で、電気を使って走る車のこと